

帰りたいけど帰れない

新型コロナウイルス緊急事態宣言が解除され、都道府県をまたぐ移動の自粛も全国で緩和されています。しかし、全国的にクラスターも多数発生しており感染者数は予断を許さない状況で推移しています。このようなことからゴールデンウィークやお盆休みなどを利用して高原町への帰省を計画され断念された方も多かったのではないかと思います。また、町内には遠くに住む子供さんや孫さんに会える日を心待ちにされていた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

高原町では「今は帰れなくてもいつかは帰れる日が来る。お互いにその日が来るまで頑張ろう。」そんなお互いの無事と幸せを願う気持ちを宅配便と一緒に届けてもらうため「戻ろごたろどん・・・きばっくいやん便」を2回行いました。家族から送ってもらう荷物の配送料を町が負担し、町が準備した除菌スプレー、マスク、特産品なども一緒に送るといった企画でしたが、当初の予定を上回る多くの皆さんに利用していただきました。

その後、荷物を受け取られた方々から役場宛てに何通かの手紙が届きました。内容は、町に対するお礼の外、帰省できなかったことが残念であったこと、都市部に住み感染への不安な毎日を過ごしていることなどが書かれていますが、読ませていただいて最も印象に残ったのは、ふる里高原町を懐かしく思う気持ちと高原町民のことを心配されていることです。手紙の一部を紹介します。(電話も含みます。)

- ・ お盆にお墓参りに帰る予定だったが帰ることができずご先祖様に申し訳ない。(電話 東京都)
- ・ 毎日、霧島山を思い浮かべながら頑張っています。(電話 東京都)
- ・ コロナが落ち着いたらいつの日か「もどいかなる日」を楽しみにして過ごします。(岡山県)
- ・ 感染減ることなく八月帰省を諦めました。一日も早く収束し平穏な日を願って高原町の無事を祈っております。(東京都)
- ・ ふるさと高原を忘れた日はありません。(兵庫県)

「帰りたいけど帰れない」そんなもどかしさとウイルスに対する不安を抱えながらの日々を過ごしながら、それでも高原町のことを忘れず私たちを励ましてくださる皆さんに心から感謝したいと思います。

皆さんが、ふるさと高原に帰って来られる日が一日でも早く訪れることを心から願っています。